

# 建設通信新聞

Architectures, Constructions & Engineerings News (Daily)

2009年(平成21年)4月6日(月曜日)

(第三種郵便物認可)

魚谷工作所

## 路上鉄蓋容易に交換

### 水使わずカッターで切断

魚谷工作所(本社・山口県周南市、魚谷礼子社長)は、道路にある鉄ふたを簡単に交換できる舗装カッターを開発

した。道路にあるほとんど美しく仕上げることができ、すべての大きさの丸ふたに対応できるため、廃棄物の発生が最小限に抑えられ、外観を美しく仕上げることもできる。切断時に水を使わない乾式工法のため、汚濁水の処理が必要なく、アスファルト粉は集塵機で95%以上集めるなど環境にやさしい。移動、操作が簡単な舗装カッターの開発により、従来、工法協会を通していた鉄ふたの維持管理を、地元の建設業者が直接できる



特殊なブレードで鉄ふたの周囲を円形に切断

直接できる

よくなる。

上下水道や電力などのふたは、劣化に応じて定期的に取り換える必要がある。特に下水道は豪雨による洪水によってふたが外れ、人が転落する事故が起きているため、多くの自治体は安全性の高いふたに取り換えを進めている。

マルチ舗装カッター「マルクカッター」は、ふたを砕くことを取り換える際、周囲のアスファルトを切断するために使う。特殊なブレード(歯)によって、ふたの丸みに合わせて周囲をきれいに切断する。

数種類のブレードで直径650〜2000mmのふたであればどのサイズにも対応する。情報ボックスなど長方形のふたの角だけを丸く切断することもできるほか、直線の切断も可能だ。

重さは約50kgと軽く、小さくても百数十台あった従来の機械に比べると持ち運びが

きて扱いやすい。

ふたに沿って丸く切断できるため、発生するアスファルトガラなどの廃棄物が少なく、施工スピードもアップする。

切断時に集塵機で集めたアスファルトの粉は、アスファルトガラと一緒にリサイクルされる。水を使った切断で発生する汚濁水のような廃棄物の処理は不要だ。

従来、鉄ふたの交換は、工法協会などを通して施工されることが多かったが、軽くて簡単な切断機を使うことで、地元建設業者が直接施工できる。「鉄ふたは地元が施工して維持管理するのが一番」(同社)という考えから、だれでも使える切断機の開発に至った。

本体価格は95万円。初年度に100台、中期目標として年間500台の販売を目指す。

同機械は、山口県の「やまぐち地域中小企業育成基金」を活用して開発した。